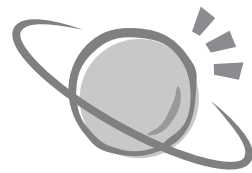


さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第29号

だれもが自然に障害のことを知るために

社会参加推進事業の充実を

さいたま市保健福祉局福祉部障害福祉課長 吉野 博之

日頃より本市の障害者社会参加の促進に多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。

名以上の方にご参加いただき、大変賑やかな楽しいつどいとなりました。

さいたま市障害者協議会におかれましては、本市の障害者社会参加推進センターの運営団体として障害者週間記念事業「市民のつどい」をはじめ、生活訓練や家族教室など、障害者社会参加推進事業の中心的役割を担っていただいております。これもひとえに会員皆様方のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

また、生活訓練等事業におきましても、10団体が家族教室5回、生活訓練7回、年間12回の事業を行い、全事業合計で833名の方に参加していただきました。どの事業も参加された方はとても熱心に傾聴され、時には意見を交わしながら、

お陰をもちまして、今日、各種事業が例年の恒例事業として開催することができており、特に、本年度の「市民のつどい」におかれましては、立地条件等の環境面を考慮し、浦和駅前会場を移したことで1,000

事業の目的でもあります障害者の自立や社会参加の促進につながっていると感じました。障害福祉課としまして、これらの事業を今後ともより発展させ素晴らしいものとなるよう



聞こえない人のコミュニケーションのとり方に熱心に耳を傾けました

努めていきたいと考えておりますので、引き続き皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。



スウェーデン発祥の ブンネギターを楽しむ

たった1本の弦しかなく、ブンネギターを巧みに操って音楽を作り出す先生。スウェーデン発祥の音楽療法ブンネメソッド普及活動をされているカウト先生をお迎えして、9月5日にさい

たま市ダウン症連絡会では生活訓練を開催いたしました。障害者を持ったお子さんをはじめ、保育士や療法士の方など幅広い分野、年齢の方々に参加していただき、全員が演奏家になって楽しい一時を過ごさせていただきました。気さくで日本語がお上手な先生のお話もおもしろく、また、照れ屋さんで部屋の隅でもじもじしているお子さんにも楽器を差し



出され声をかけてくださるなどの気配りもあり、全員が楽器に触れられたと思います。残念なことには時間が短く、もっとという気持ちでいっぱいでした。

音符が読めなくても、色や動物で代用することで難しく考えずに素直に音を出せます。音がうまく出せたときのみなさんの顔は喜びと、楽しさであふれていました。音を楽しむという音楽の基本を思い出させていただき、お稽古事や療育ということよりも、様々な場面・いろいろな人たちと一緒に、または一人で、楽しく自己表現できるようになれたらと思います。

大きな荷物を持ってご指導においでいただきました先生をはじめ、ご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

さいたま市ダウン症連絡会

佐藤美也子

「障害者権利条約」を学ぼう

今年の「家族教室」は障害者権利条約について考えました。

一二月十八日障害者交流センターにて七十五名の参加を頂き開催出来ました。法律用語が出てくる内容にも関わらず七十五名の参加を頂きました。個人で読み解くには、難解な条約の言葉と必要な意味を講師の斎藤なを子氏の力で分り易く教えて頂きました。話から権利条約の持つ隠された力を理解出来ました。

続いて増田一世氏と山口さんのご息との生活を通して条例が生活を変える手段に使える事、障害が有るからと諦めないで権利を望んで良いことを知りました。

これは障害のある家族との生活を見直す機会と、障害が有っても人権が保障されなくては行けないと言う考えを新たにしました。



質疑応答には、障害の枠を超えて多くの声を頂きました。

日頃から矛盾を感じているグループホームの事、就労に関する制度の不備、生活を支えてきた障害者支援サービスの見直しについて語って頂きました。会場からの意見に条例の使い方を交えての解説を頂きました。

講師と参加頂いた方の発言から、この条例は社会的弱者の生活保障の条例で、障害者だけの条例では無い事を知る「家族教室」になったと感じました。

さいたま市手をつなぐ育成会

黒澤 篤子

障害があっても ありのままに

去る平成二八年二月六日土曜日十三時半からさいたま市浦和コミュニティセンター九階第一五集会室で「障害があってもありのままに生きたいんです」を開催した。

今回お願いした講師の方は、さいたま市で一人暮らししながら、電動車椅子サッカーで活躍している石井佑季さん(二八歳)ベッカー型筋ジストロフィー。演題「電動車椅子サッカーに出会って〜念願の一人暮らし〜」もう一人は海老名市在住で在宅就労しながら、電動車椅子サッカーをしている高林貴将さん(二六歳)同じくベッカー型筋ジストロフィー。演題は「すべてに感謝！〜幸せな人生を送る秘訣〜」ということだった。

石井佑季さんは、栃木県出身、産まれた頃は発達の遅れがあったそうだ。中学のときに筋ジストロフィーベッカー型と診断さ



れ小・中・高・大は普通学校に通学。大学時には吹奏楽部に入り、仲間も増えて幸せな大学生生活だった。

十五歳のときに電動車椅子サッカーに出会い、埼玉県ブラックハマーズチームに所属した。

最初は試合にあまり出しても、力を出さず悶々としていたが、実力を発揮して日本代表を目指すようになった。二七歳のときにさいたま市で一人暮らしを始めた約半年間を振り返り、講演の締めとして、母親に「僕を産んでくれてありがとう」と語った。

もう一方の高林貴将さんは、一九八九年神奈川県伊勢原生まれで、二歳ごろに進行性の筋ジストロフィーと診断される。小中高と普通校を卒業。大学時代から本格的な車椅子生活になり、現在、海老名でヘルパーを

利用しながら家族と暮らしている。週五日三〇時間、特例子会社U.T.ハートフル株式会社で在宅勤務。

高林さんは病気の進行を自覚した時に自暴自棄になったが友達やボイスカウト、大学時代の合宿などから病気を受容し、生きることは楽しいことだけじゃなく、辛いことや悲しいこともあるのが人生。でも、そういったものと向き合うことで成長できるのではないかと話していた。

埼玉県筋ジストロフィー協会
さいたま市支部 猪瀬 剛

生活訓練事業 言葉のずれを 理解して！

今年度の「生活訓練事業」でのテーマは「アトムワールド〜私の日本手話は？〜」で砂田アトム氏に講演していただきました。

現在、各地で手話言語条例が制定され、手話言語法制定の機運が高まっています。

アトム氏はデフファミリィ(親・兄弟が皆ろう者)で育ち、

普段の生活ではあたり前と思っていたことでも、社会での聴者とうろう者の認識のズレがあることがわかったという内容のお話しでした。とても面白おかしく講演して頂きました。

聴者の言葉でも遠まわしで話す事で納得する部分もありますが、ろう者とは通じない部分があります。例えば、手作りの料理が出される時、「どう?」と聞かれたら「まあまあおいしい」と答えるのは、ろう者の世界では「とてもおいしい」という意味で通じます。聴者にしてみれば傷つけられた気持ちになるそうです。そういう言葉のズレが他にもたくさんあります。

そういう違いがある事をろう者も聴者もお互いに理解し合いながら仲良く生活していく為には「手話は言語」という認識をして頂きたいと思います。

手話のわからない聴者の皆さんにも理解して頂くために、手話言語法制定への運動を続けていきたいと思っています。

さいたま市聴覚障害者協会

青山 淑子

スウェーデンと日本の福祉の比較



私達、さいたま市精神障害者当事者会ウィーズでは、去る二〇一五年十月十八日(日)北浦和ふれあい館二階第一会議室に於いて生活訓練を行いました。

私達ウィーズでは、「共に作ろうみんなの輪」というシリーズでやっていきますが、その八回目となります。

テーマは「スウェーデンと日本の福祉の現状と比較」と題し、講師には早稲田大学人間科学学術院准教授の岩崎香先生に来ていただきました。

例年、私達は二月十一日建国記念日に行っていたのですが、雪の心配もあることから、今回は試験的に十月の開催とし、夏の暑い時期に準備も進めました。

当日は天気にも恵まれ、四十六名参加となりました。



話の内容は「スウェーデンとは、どんな国か?」と言う話から始まり、(例えば、「スウェーデンは王国である」とか…)

次に「パーソナルオンブズマン」について話され、(これは、スウェーデンで行われている精神障害者を支援する仕組みです)後は「平等とは?」と言うテーマで「丸いケーキを七人で分けるには?」と言う問いかけや「だまし絵」を使って物事を

多面的に捉えると言うおまけもありました。

今回の学習会では、ウィーズ内での結束は勿論、さいたま市障害者協議会事務局、ふれあい館、行政、当日来てくださった方々、ご指導ご鞭撻くださった全ての方がたのお陰で成功する事ができました。

本当にどうもありがとうございました。

さいたま市精神障害者当事者会
ウィーズ 稲葉 晃

正しい薬の飲み方

講師 一般社団法人さいたま市
薬剤師会 役員 野田 政充氏
開催日 平成二八年一月二六日

野田政充氏をお招きし、おくなりについての適切な飲み方を日常のはなし言葉で、わかりやすく解説していただきました。薬の特徴を理解する際に気をつける三か条

- ① どんな薬なのか理解する。
- ② 自分にとって利益、不利益を理解する。

③ 薬として最大の効果を発揮できる環境を作る。

の説明導入を柱にパワーポイントでスライド画面を同時進行させながら、薬剤師と患者のベクトル矢印を同一方向にするコンコードダンス(患者主体)の治療の重要性をわかりやすく講演くださいました。

二〇一一年の東日本大震災の際に有用性が明確となったお薬手帳を上手に活用するには、自宅に保管するのではなく、持ち歩く事が重要と訴えられ、参加者は、東北地方の患者さんの実体験を身近に痛感いたしました。

これからの処方箋は、お医者さんと患者さんと薬剤師さんでつくる。多職種連携を強め、患者さん中心の予防医療を進める構想の講演に参加者は薬剤師さんが相談しやすい存在と心強く感じられたようです。

NPO法人さいたま市障害難病
団体協議会 中野 昭江

平成27年度 社会参加推進センター開催事業報告

事業名	開催日／場所	参加者数	テーマ・内容等
生活訓練開催事業（知的）	9月5日(土) 浦和コミュニティセンター 音楽室6	90名	「Let's enjoy! 音であそぼう」 スウェーデン生まれの音楽療法「ブンネメソッド」 講師：カウト・ヨアキム氏 Swedish Quality Care 株式会社
生活訓練開催事業（身体）	9月13日(日) 埼玉県障害者交流センター ホール	121名	聴覚障害者のための特別講演 アトムワールド ～私の日本手話は？～ 講師：砂田 アトム氏
生活訓練開催事業（精神）	10月18日(日) 北浦和ふれあい館 第1会議室	46名	～共に作ろうみんなの輪 Part 8～ スウェーデンと日本の福祉の現状と比較 講師：岩崎 香氏 早稲田大学人間科学学術院准教授
生活訓練開催事業（身体）	10月24日(土) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	25名	命を守る支援、災害時の対応とその後 ～東日本大震災からえたものとは～ 講師：長谷川 秀雄氏 いわき自立生活支援センター理事長
生活訓練開催事業（身体）	11月15日(日) 与野本町コミュニティセンター 多目的室（大）	60名	楽しくできるロコモ体操 ～ロコモティブシンドロームを中心に～ 講師：宇田川 眞氏 理学療法士
家族教室開催事業（精神）	11月15日(日) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	121名	「地域で暮らそう自立しよう」 心安らぐ住まいが自分らしく生きる力に 講師：坂井 ひとみ氏 リリー賞受賞
家族教室開催事業（身体）	11月28日(金) 与野本町コミュニティセンター 多目的室（小）	41名	「老後の生活と介護」 ～自分らしい生活と介護保険制度～ 講師：野崎 直子氏 さいたま市社会福祉協議会
「障害者週間」 市民のつどい	12月5日(土) 浦和コミュニティセンター10階 浦和駅東口駅前市民広場	1024名	「障害者週間」を記念して広く障害のある人もない人も一緒に楽しむ催し 市セレモニー、障害者作品展、姜尚中氏講演、 当事者による演奏、中学生吹奏楽、授産品の販売、 各団体による企画（9事業）・支援センターによる相談
家族教室開催事業（知的）	12月18日(金) 埼玉県障害者交流センター ホール	75名	「障害者権利条約」を学ぼう ～地域であたり前に暮らしていくために～ 講師：斎藤 なを子氏、増田 一世氏
家族教室開催事業（身体）	28年1月26日(火) さいたま市大宮ふれあい 福祉センター 301-303会議室	55名	正しい薬の飲み方 ～障害難病者・高齢者の薬の管理と服薬指導～ 講師：野田 政充氏 一般社団法人さいたま市薬剤師会
家族教室開催事業（精神）	28年2月5日(金) 浦和コミュニティセンター ホール	70名	「精神科病院が取り組む地域づくり」 講師：長野 敏宏氏 愛媛県南宇和郡愛南町 御荘病院院長
生活訓練開催事業（身体）	28年2月6日(土) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	49名	障害があってもありのままに生きたいんです！ 筋ジストロフィー当事者による講演 講師：石井 佑季氏・高林 貴将氏
生活訓練開催事業（身体）	28年2月14日(日) 浦和ふれあい館 第一会議室	80名	「オストメイトのための医療講習会」展示会 オストメイトと癌の再発、抗ガン治療について 講師：辻仲 眞康氏・深野 利恵子氏 自治医科大学

オストメイトと癌など トラブルをめぐって

平成二十八年二月一日、浦和ふれあい会館で、さいたま市障害者社会参加推進事業の医療講習会を開催しました。

会員の皆様はもとより、非会員の方、医療従事者や介護事業所の方々にも参加いただけたという、市報、市内の病院へのポスターやチラシの掲出依頼、補装具会社にチラシ配布依頼等を行い大勢の方に参加していただけたよう努めた、会員の皆さまはもとより一般の方や医療従事者の方々等八十名の方が参加くださいました。

第一部として埼玉県オストミ―協会顧問の自治医科大学付属さいたま医療センター医師辻仲眞先生に「オストメイトと癌の再発、抗がん剤治療について」、第二部として自治医科大学付属さいたま医療センター皮膚

膚・排泄ケア認定看護師の深野利恵子先生に「こんな時どうする？ ストーマ関連トラブル解決法」と題してプロジェクターを用いて解りやすく丁寧に説明をいただきました。

皆さん癌の再発や抗がん剤治療、排泄物の漏れなど、日頃発生する可能性高いトラブルの解決法、老後自分で補装具が交換できなくなった場合等について、休憩時間にも先生に直接質問される方もいて大変有意義な講習会になりました。4社の補装具会社様にサンプルの展示をいただき好評でした。

日本オストミー協会
さいたま市支部 野本喜代司

多様な健全な人が 暮らす地域づくり

平成二七年度、さいたま市精神家族会連絡会「家族教室」は実施機会を二回いただき一月

一五日、「地域で暮らそう自立しよう」阪井ひとみ氏講演会と二月五日「精神科病院が取り組む地域づくり」長野敏宏先生講演会を開催しました。本来にありがとうございました。

一月の「家族教室」講師の阪井先生は岡山市の不動産会社社長のお立場から、「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」憲法二五条からかけ離れた生活実態に義憤を感じられ、約二〇前から精神障害者を含め社会的弱者と呼ばれる人の自立のため

に、自社アパートの内装設備は入居者の生活能力に合わせた備え、必要に応じた多様な専門家の支援体制、町内の付き合い等を構築し、隣人ピア同士が支え合い暮らす講演会で、さいたま市内の不動産会社の方を含め二二名の参加者が感動を受けました。

初の浦和コムナーレ十階多目的ホールに於ける二月の「家族

教室」では、夕方からにもかかわらず七〇名の参加者をお迎え

しました。演者の愛媛県南宇和郡愛南町の御荘病院院長・長野先生の「多様な人が、多様な価値観で、多様に暮らす」という理念のもと、町の住民とリスクを背負い合い「共働」で町の「生業（地域産業づくり）」を着想豊かに創業され、健常者も若くして障害を抱えた人も老いて認知症を抱えた人も地域社会で支え合いながら暮らす世界を実現した壮大な実のあるお話しに圧倒されました。

さいたま市精神障害者
家族会連絡会 伊藤眞里子

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒330-0801

さいたま市大宮区土手町

一・二二二・一

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七

FAX 〇四八・六五三・七三四

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

bz03plala.or.jp

発行・編集人 浅輪 田鶴子